

たまたま偶然によって被災した時、人は自問せずにはいられない。なぜ、他でもなくあの時あの場で、他でもなくこの私がこんな目に遭わなくてはならないのか…。

この「なぜ」は、客観的には無益な問いだが、当人には切実かつ執拗(しつこ)い。な問いだ。第三者には偶然でしかないものが、当事者には必然と映る。必然化された「偶然」は「運命」という語に漸近(ぜんじん)する。「運命」を語れば、決定論になる。決定論を語れば、宗教になる。宗教の一步手前に踏みこみ、「偶然」を思索するSF(スペースオペラ)「フック」が本書である。

五つの短編を収める。マッチングアプリで知りあった男女がひょんな偶然から関係破綻し、双方に修復不能な傷を残す「富士山」①。「偶然」



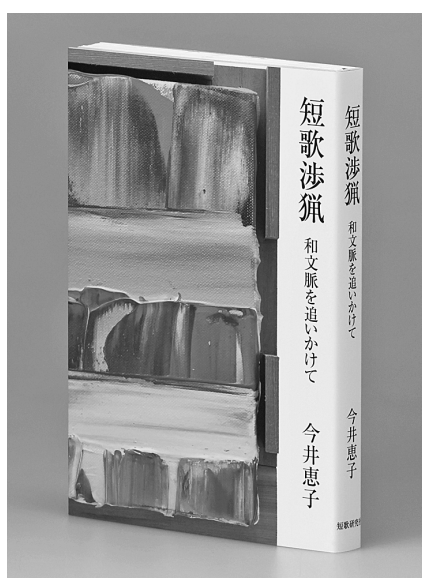
「富士山」 平野啓一郎著

さいな「偶然」から死を免れた男が、死を免れなかったもう一人の自分とバレルワールドを生き始める「思秋」②。無差別殺人を断念した男が、「偶然」によって殺人を断念するに至る「鏡と自画像」③。「偶然」に吐かれた言葉が、3代にわたって伝染する「手先が器用」④。「偶然」が引き起こしたストレスが、人から人へウイルスのように感染する「ストレス・リリー」⑤。

②③は長編並みの重厚な構成で、著者一流の警句や比喩が散る。①と⑤は極限まで切り詰めた文体で、読者を驚かせる。「偶然」が「必然」に転じる臨界点をあぶり出すには、この文体が必要だったのかもしれない。評者はこの清潔無比な禁欲的文体に、平野の新境地を見る思いがした。

仏教の「業(ごう)」の考え方は、「自因自果」という形で語られることが多い。が、平野は「自因自果」を「自因他果」や「他因自果」にすり替えて描く。この発想が、「三島由紀夫論」の執筆過程で、唯識思想との対話が生まれたのだと持ち、興味深い。本作は五つの文庫を持っ一軒の家をなす。⑤の結びが見事である。

(三輪太郎・評論家)
(新潮社・1970円)



「短歌渉猟」 今井恵子著

短歌は日本語の精髓である、と言われる。1300年にわたるこの固有の定型詩は、日本語の生と深く関わっている。著者はその生を、和文脈と呼び、その実態を明らかにしてゆく。

具体例は身近で豊富だ。たとえば手紙の宛名。私達は手紙に住所を書くとき、県、市、町、番地、姓、名という順番でそれを記す。自分の周辺から自分の位置を叙述してゆく。西欧は逆だ。名、姓、番地、町、市、県という住所を記す。まず自分が確固として存在し、その自分が周囲を記述してゆく。西欧語が自分を起点として記述してゆく。日本語は回りのものから自分を規定してゆく。そこに「われ」を突出させない日本語の本質がある、と著者は言う。

それは和歌の場合も同様だ。著者は樋口葉が師から受けた添削をその一例として紹介する。

あるとき、秋雨を見た一葉は次のような歌を作る。ふるる雨に桜の紅葉ぬれながらかちる色に秋はみえけり。が、この歌の結句は師によって「秋に成(なり)にける哉(かな)〜と直されてしまう。

著者はこの添削のなかに伝統的な和歌の価値観が如実に表れている。この「秋はみえけり」のように自分の視点で強調した表現は下品だ。「秋」という周囲の状況に自分が没入することこそが美である。この添削にはそんな和歌の美意識が如実に表れている。和文脈では「われ」の突出は忌避されるべきものだったのである。

このように考えてゆくと、私は、近代短歌が背負った困難に改めて思い至った。近代の短歌は、和文脈に基づきながら近代的自我を表現しようとした。「われ」を突出させようとした。それは日本語の生理からすればきわめて矛盾した営みだった。近代の歌人たちは、その困難を背負いながら「自我の詩」を開拓しようとしたのである。著者は膨大な資料を渉猟し、彼らの苦闘を追いかけてゆく。私はここで深い感銘を覚えた。

(大辻隆弘・歌人)
(短歌研究社・3300円)

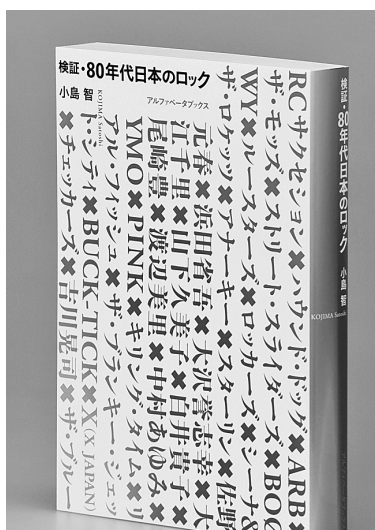
「偶然」を思索する小説

「和文脈」の実態探る



体験を軸にアーティスト考察

寺に求められる「連携」



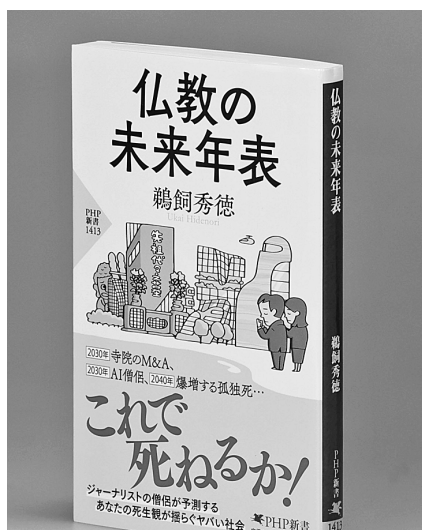
「検証・80年代日本のロック」 小島智著

1980年代の月刊音楽雑誌「ミック・ステイ」に携わり、85年から休刊まで2代目編集長を務めた。その後音楽ジャーナリストとして活躍を続けてきた人物による書き下ろし。取材が接点を持ったアーティストに関する考察を中心に、当事者ならではの真話を交えて構成しており、気負ったことなく、読み進むことができる。かなり多彩なアーティストが狙上(そじょう)に載せられるが、あくまでも当時の著者の体験が軸になっているため、必ずしも体系的に網羅しているというわけではない。

フランク・シニット・シティについては、87年結成と書かれているが、オフィシャル・サイトには90年2月結成とある。これは間違いだと思われる。見聞も90年代のもので、本書の書き下ろしで自身が無茶(むちゃ)々々。それでもロンドン・ヒースロー空港での入国審査でのエピソード

「ミュージック・ステイ」初代編集長への批判は唐突に感じた。著者と批判されている人物との両方に面識のある評者としては、初耳だし具体的な事象が述べられていないので戸惑うばかり。だが著書に書き残すからには相違(ちが)いな確執があったのだろう。メディア内部でそんな混乱があったと自体も発展途上の80年代ならではの逸話なのかもしれない。

(志田歩・音楽ライター)
(アルファベータブックス・2750円)



「仏教の未来年表」 鶴岡秀徳著

「1500年の歴史を有する日本の仏教がいま、過渡期にある」という書き出しだが、壮大な宗教史が語られるわけではなく、読み手の個人的事情にも通じる、極めて具体的な話題が並んでいる。

「直葬」「樹木葬」「ペット葬」「墓じまい」「バーチャル供養」「戒名不要論」「寺院消滅」…最近よく見聞きするこうした言葉は、いかに仏教が大きなターニングポイントを迎えているかを物語っている。

中でも墓じまいは、多くの人に思い当たる言葉ではないか。先祖代々の土地を離れて暮らす人が多いためから当然とも言える。「完全に墓じまい」され、遺骨が都会に移動してしまったり、もう二度と寺や故郷には戻ってこなくなる。墓じまいは、人口減少の種を生んでいる。墓じまいも寺院消滅の種を生んでいる。墓じまいや寺院消滅の傾向を教し方ないとしつつ、少しでも抵抗できないかと考えを巡らせる。キーワードは「連携」だ。例えば、地方から都会に移り住む人が菩提(ぼだい)に寺に墓を残しながら都会の墓に分割し、そこで行われる法事の布施が地方の寺に配分されるようにする。実例はあるようで、他にも建物やホテルに分け合い、賃借料を寺の維持に充てる「ホテル一体型モデル」も京都や大阪で見られる。寺院単独での存続が難しい時代、こうした連携は増えていくと著者は予測する。

同じく増えそうなのが、墓所内の木の下に納骨する樹木葬。自然に返るイメージや価格の手ごたえを受け、既に全霊園の1割強を占めているという。島根県海士町が無人島「カヌラ島」全体を自然教養所とし、それが地域創生の観点から注目されている、といった事例も興味深い。

長生きすれば、それだけ長く老いや孤独、死の恐怖にさらされる。「葬式仏教」は形骸化し、僧侶が病院や高齢者施設などでケアに当たっている「医療・福祉仏教」が存在感を増していくという終盤の指摘は、超高齢化社会の本質を捉えている。

(石丸淳也・時事通信社編集委員)
(PHP新書・1210円)

SENSHIN INFORMATION 案内板

銚路観光・道東観光等は
こぼとハイヤーに
お任せください!

最大9名様乗車可能。
ジャンボタクシーを
ご利用しております。
※完全予約制

キャッシュレス決済可
●タクシー乗務員募集中!!
フェイスブック
始めました

★ご用命・お問い合わせはこぼとハイヤーへ
0154-36-3636
〒088-0622 銚路町木場1丁目10番地1

株式会社 **ドロウ**
求む! 建物・マンション・土地

0154-25-05054
http://www.drow.com

売家	売マンション	売事務所
<p>銚路市浪花町12丁目 590万円</p> <p>銚路市泉取北6丁目 320万円</p> <p>銚路市緑ヶ岡6丁目 400万円</p>	<p>銚路市泉取北6丁目 320万円</p> <p>銚路市泉取北6丁目 320万円</p> <p>銚路市泉取北6丁目 320万円</p>	<p>銚路市泉取北6丁目 320万円</p> <p>銚路市泉取北6丁目 320万円</p> <p>銚路市泉取北6丁目 320万円</p>

株式会社 **ホクトハウス**
求む!! 土地・マンション・建物・事務所

0154-31-2431
http://www.hokutohouse.com

貸マ	貸家
<p>幸町 13DK 1LDK</p> <p>昭南5 1DK</p> <p>緑ヶ岡5丁目 2DK</p> <p>幸町 13DK</p> <p>幸町 13DK</p>	<p>春 探 2LDK</p> <p>柳町 12DK</p> <p>共栄大通 3LDK</p> <p>共栄大通 3LDK</p> <p>共栄大通 3LDK</p>

中古 **119番** 住宅
売りたい 買いたい 直したい
査定・相談無料

0154-31-2431
株式会社 **ホクトハウス**
http://hokutohouse.com

株式会社 **伊藤建業**
不動産事業部

0154-52-08080
http://www.itoken946.com

土地建物を買りたい方
無料査定実施中

株式会社 **ホクトハウス**
売家

0154-31-2431
http://www.hokutohouse.com

売家	売事務所
<p>銚路市旭町5番地 2,000万円</p> <p>銚路市泉取北6丁目 320万円</p> <p>銚路市泉取北6丁目 320万円</p>	<p>銚路市旭町5番地 2,000万円</p> <p>銚路市泉取北6丁目 320万円</p> <p>銚路市泉取北6丁目 320万円</p>